

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 29 日現在

機関番号：25403

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884056

研究課題名(和文) パシフィック・ノースウェスト・スクールと日本の戦後美術の交流

研究課題名(英文) i

研究代表者

中嶋 泉 (Nakajima, Izumi)

広島市立大学・芸術学部・准教授

研究者番号：30737094

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、戦後日本に大きく紹介された、米国西海岸の美術「パシフィック・ノースウェスト・スクール(太平洋北西派)」について、東京国立近代美術館、シアトル大学特別コレクション、ブルックリン美術館等で個別の展覧会の資料の調査を行い、当時の批評の収集と検証、作品の分析を行った。これによって占領後の日米文化交流の促進において、この運動が両国でどのような役割を担い、また文化イベントでの交流が互いの文化に対してどのような理解を作り出したのかを明らかにした。これらの研究成果は、研究発表や論文にまとめ、今後随時発表してゆく。

研究成果の概要(英文)：In this study, I conducted an extensive research on the cultural exchange between post-occupational Japan and the United States, based on an art movement called Pacific Northwest School. The project included researching into several exhibitions at the archives at the National Museum of Modern Art, Tokyo, Settle University Special Collection, and Brooklyn Museum, collecting and examining the exhibition reviews, and analyzing the works of art that were related to this cultural exchange. This study clarified the roles the art movement took in the promotion of cultural exchange in the post-war years between two countries. The result will be publicized through presenting papers and publishing a book in the following years.

研究分野：美術

キーワード：美術史 日米文化交流 パシフィック・ノースウェスト・スクール 米国 日本

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、第二次世界大戦後日本の抽象画に関する以前の研究から、1950年代より加速化する国際化が現代美術へ与える影響に関心を持った。特に占領期以後の日米の文化交流は特殊である。講和条約締結後に最初に紹介されるようになった米国の美術は、よく考えられているように抽象表現主義ではなく、西海岸の絵画を中心としていたことを知った。そのことから、本研究では米国西海岸の美術「パシフィック・ノースウエスト・スクール(以後、太平洋北西派)」が、占領後の1950年代前半における日米文化交流の促進において両国でどのように受け取られ、いかなる具体的な役割を持っていたかの解明を目指した。

2. 研究の目的

太平洋北西派は1950年代に日本の美術界で大きな反響を得ていたにも拘らず、現在ではこれについて検証されることも稀である。日本の戦後美術の展開を促した外的刺激としては、これまでヨーロッパのアンフォルメルや米国の抽象表現主義が注目されてきたが、それ以外の当時の美術家、批評家の関心が明らかにされれば、日本の現代美術の形成に他の側面が見出されると考えた。また調査の過程で、この時期の日米文化の交流において太平洋北西派が一つの基盤となり、美術家、美術関係者、組織の相互的な交流があったことも判明してきた。そのため本研究では次の3つの観点を研究目的に据えた。1)戦後の日米関係における太平洋北西派を中心とした美術交流の意味を歴史的に検証する、2)その美術交流の様態を具体的に明らかにし、各々の美術が相手国でどのように受容され、位置付けられたか考察する。3)交流による個別の作家、作品における参照や影響はどのように現れたか分析する。

3. 研究の方法

研究の方法は主に次の三つを採った。

1) 1950年代の日米同時代美術の交流に関係した機関での、展覧会や文化イベントに関する未公開資料の調査。調査した機関は、東京国立近代美術館、ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク近代美術館、ブルックリン美術館、ワシントン大学特別コレクション等。

2) 美術誌、新聞等に掲載された展覧会評や関連記事の収集、調査、およびデータベース化。

3) 関連作家の調査、作品の実見と分析。国際的美術交流の結果が互いの同時代美術にどのようなインパクトを与えたかの考察。

4) 関連文献の収集と国際美術交流分析のための理論的枠組みの構築。

4. 研究成果

1) 1950年代の太平洋北西派に関連した日米美術交流の例について

講和条約提携後、日米の都市では互いの美術を紹介する展覧会が盛んに行われるようになった。そのなかには数多くはないものの、同時代美術を扱う展覧会も開催されるようになる。1950年代の現代美術の国際展は、日本側でこれに対応する専門機関やノウハウが確立されておらず、企画と実施に多様な経路やネットワークが利用されており、開催経緯の解明が困難であったが、近年充実してきた美術館のアーカイヴによってより詳しい調査が可能になってきた。本研究では、日米の同時代美術が紹介されている国際展うち、早い例で、公共性の高い二つの美術展、「第18回国際水彩画ビエンナーレ」(ブルックリン美術館、ニューヨーク、1955年5月)と「前衛の15人」と同時陳列さ

れた「アメリカ現代美術」展（国立近代美術館、東京、1957年5月）に焦点を当て、展覧会記録に関連する資料を精査した。残されている資料や書簡から、「国際水彩画ピエンナーレ」についてはブルックリン美術館に対して日本美術家連盟や民間企業からの協力が、「アメリカ現代美術展」についてはシアトル美術館のほかアメリカ合衆国広報文化交流局からの援助があったことがわかり、出品作品の詳細、作家、作品選定の経緯や基準、企画意図、関係者等の詳細が明らかになった。そこから当時の互いの文化の認識や期待を知ることができる。この結果は学会で発表するべく現在準備している。

2) 当時の批評における違いの評価について

1951年から1990年代頃までの日米における、相互的な現代美術展覧会の展覧会評や批評を収集し、その傾向を分析した。その結果、日米の互いの評価や自己評価には著しいずれがあり、占領後の両国の政治的関係の展開にともなって変化していったことがわかった。この調査結果の一部は西宮市大谷記念美術館の講演で発表し、現在学会誌に投稿する論文にまとめている。

3) 1950年代に日本に紹介された太平洋北西派の作品の割り出しと、それらに関して言及している日本の作家をリストアップし、この運動が日本の戦後作家にどのようなインスピレーションを与えたか文献上の調査を行った。また、太平洋北西派との直接的な交流をもった草間彌生の作品と比較分析し、創作上の交流の可能性を検証した。この考察結果は、来年度出版予定の単行書に含める予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

中嶋 泉「ニキ・ド・サンファルを日本で観ること」『国立新美術館研究紀要』第3号、2016年

〔学会発表〕(計3件)

中嶋 泉「福島秀子の絵画—戦後の人間像と抽象の方法」、第67回美術史学会全国大会、於早稲田大学、2014年5月

中嶋 泉「日本前衛美術受容の変遷」、「没後20年 具体の作家-正延正俊」展関連イベント、於西宮市大谷記念美術館、2015年7月

中嶋 泉「ニキ・ド・サンファルを日本で観る」、「ニキ・ド・サンファル」展関連イベント、於国立新美術館、2015年9月

〔図書〕(計3件)

中嶋 泉「移動する作家、移動するイメージ」『松谷武判の流れ』、西宮市大谷記念美術館、2015年、pp. 116-122.

中嶋 泉「井上照子の絵画」『井上長三郎、照子』、板橋区立美術館、2015年、218-221頁.

Izumi Nakajima, “Chronology,” Between Action and the Unknown: The Art of Kazuo Shiraga and Sadamasa Motonaga, exh. cat. (Dallas: Dallas Museum of Art, 2015), pp. 134-141, 150-157.

〔その他〕

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ

<http://www.oralarthistory.org>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

中嶋 泉 (NAKAJIMA, Izumi)

首都大学東京・人文科学研究科・准教授

研究者番号：30737094

(2)研究分担者

なし